

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 乙第 2277 号

Ten-year trend of the cumulative *Helicobacter pylori* eradication rate for the “Japanese eradication strategy”

(日本の治療戦略として、ヘリコバクター・ピロリ累積除菌率の 10 年間の傾向)

佐々木 仁 (ささき ひとし)

博士 (医学)

論文内容の要旨

我が国では 1 次除菌としてプロトンポンプ阻害薬＋アモキシシリン＋クラリスロマイシン療法、2 次除菌としてプロトンポンプ阻害薬＋アモキシシリン＋メトロニダゾール療法が保険適応であり、一貫した治療が行われている。これまで 1 次除菌率、2 次除菌率がそれぞれ報告されているが、各症例での最終的な治療結果、すなわち積算除菌率について検討した報告はない。今回我々は、『日本のヘリコバクター・ピロリ治療戦略』として、当院における最近 10 年間の 1 次・2 次・積算除菌率を調査し、その有効性に関しての検証を行った。2000 年 1 月から 2009 年 12 月までの期間にヘリコバクター・ピロリ感染症と診断され 1 次除菌治療を行った 1973 例を対象とした。2 次除菌は 1 次除菌不成功した例のうち、250 例で施行された。各例毎の最終除菌判定の結果から積算除菌率を計算し、経年変化を検討した。結果は ITT で示した。10 年間の総計除菌率は 1 次除菌で 65.3%、2 次除菌で 84.0%、積算除菌で 76.0%であった。各年毎の 1 次除菌率(2000 年 78.5%、2001 年 73.5%、2002 年 63.4%、2003 年 69.4%、2004 年 74.4%、2005 年 63.4%、2006 年 61.5%、2007 年 60.1%、2008 年 65.4%、2009 年 64.8%)は年々低下 ($p=0.0243$) していたが、2 次除菌率 (2000 年 100.0%、2001 年 60.0%、2002 年 66.7%、2003 年 87.5%、2004 年 100.0%、2005 年 85.3%、2006 年 92.0%、2007 年 86.8%、2008 年 79.4%、2009 年 84.0%)は経年変化を認めなかった。各年毎の積算除菌率(2000 年 86.1%、2001 年 77.1%、2002 年 69.5%、2003 年 76.5%、2004 年 80.1%、2005 年 73.3%、2006 年 70.9%、2007 年 70.8%、2008 年 81.7%、2009 年 80.2%)の比較では有意差は認めなかった。1 次除菌率の低下はあるものの、積算除菌率は経年低下を認めず保たれていた。治療開始後で経過中に未受診となった例を除外したものを PP とすると、10 年間の総計除菌率は PP で 1 次除菌：68.9%、2 次除菌：89.4%、積算除菌：98.4%であった。以上より我が国の除菌戦略は有用であることが示された。